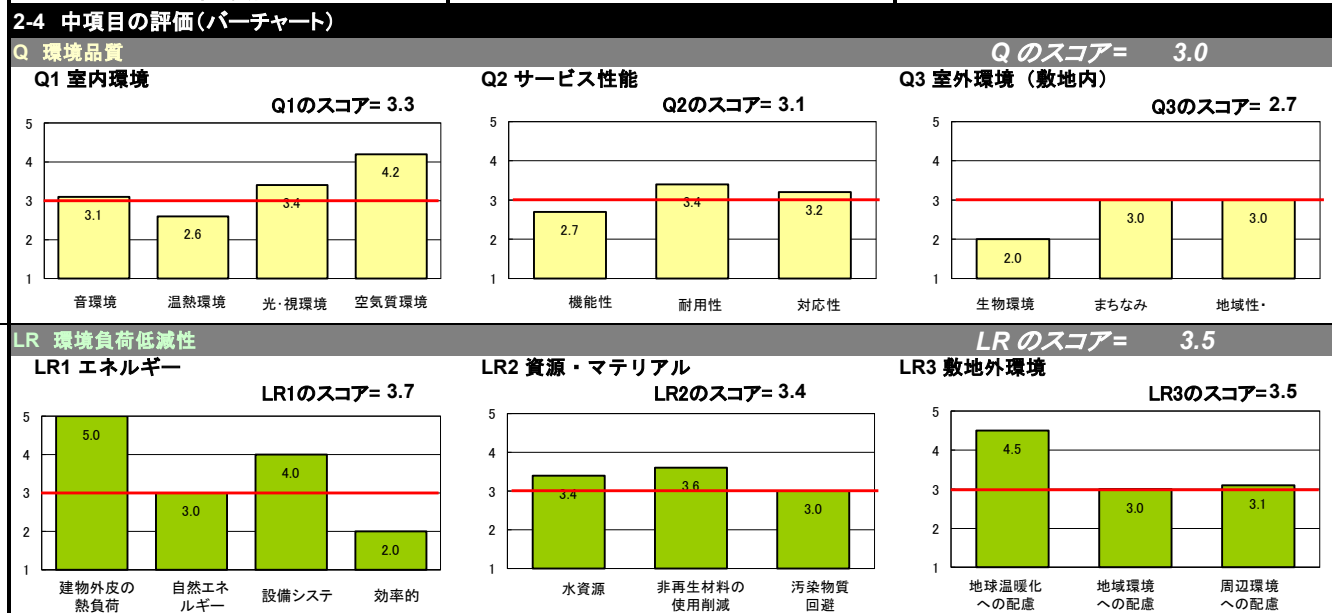
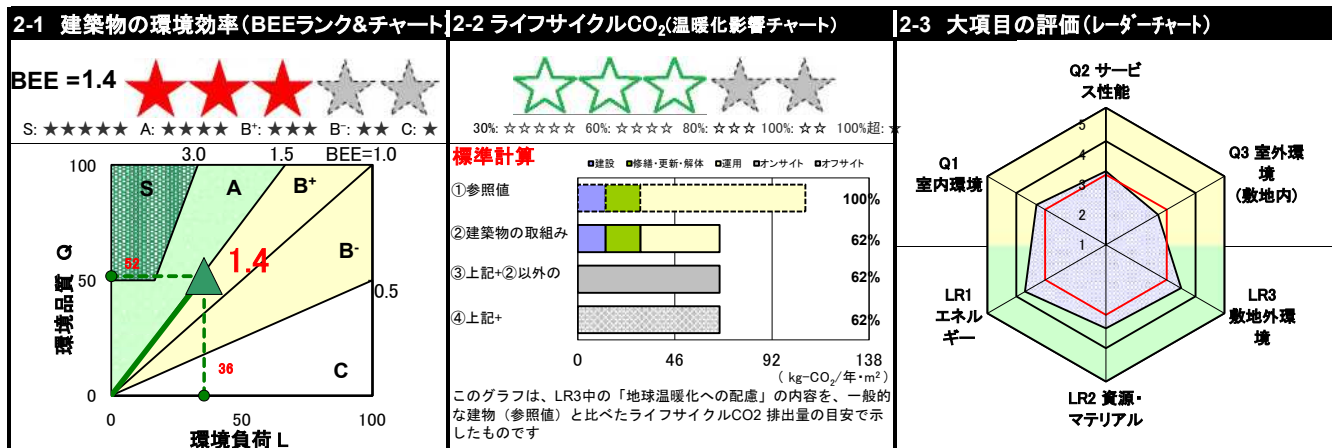


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 26001

建築物名称	川崎港湾合同庁舎(仮称)(27)建築その他工事
建築主	国土交通省 関東地方整備局長 橋本 雅道
建築物の所在地	川崎市川崎区千鳥町18-2
設計者氏名、建築士事務所名	大久保 誠悟 株式会社都市環境設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,690.25㎡
用途	庁舎(事務所)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和11年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎港湾合同庁舎(仮称)(27)建築その他工事	階数	地上5F
建設地	川崎市川崎区千鳥町18-2	構造	RC造
用途地域	商業地域,準防火地域	平均居住人員	63 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年12月 予定	評価の実施日	2026年3月16日
敷地面積	1,838 m ²	作成者	池野晴美
建築面積	599 m ²	確認日	2026年3月18日
延床面積	2,690 m ²	確認者	池谷俊輔
		外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	室内ブラインドの採用と庇の組合せで抑制した	0.5/0.7	3.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値は0.8以下(0.58)となっている BEI値は0.48となりZEB Readyを達成している	3.7/5.0	3.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水に配慮した器具を使用した 内装材に特定調達品目(グリーン購入法商品)の採用、GL工法・LGS下地を採用	3.3/4.7	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.4
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	空調・給排水配管は耐用想定年数の長いものを採用した	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水に配慮した器具を使用している 内装材に特定調達品目(グリーン購入法商品)の採用、GL工法・LGS下地を採用	2.8/4.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	来庁者用駐輪場、来庁者・職員・管理用の各駐車施設・スペースを確保した	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値は0.8以下(0.58)となっている BEI値は0.48となりZEB Readyを達成している	3.7/5.0	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値は0.8以下(0.58)となっている BEI値は0.48となりZEB Readyを達成している	3.7/5.0	3.7

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階													
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		評価点		重み係数		全体
		G	W	R	H										
Q 建築物の環境品質															3.0
Q1 室内環境									0.40		-				3.3
1 音環境								3.1	0.15		-				3.1
1.1 室内騒音レベル						—		3.0	0.40		-				
1.2 遮音						—		3.4	0.40		-				
1 開口部遮音性能						Dr-41		3.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能						—		4.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						—		-	-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						—		-	-		-				
1.3 吸音						—		3.0	0.20		-				
2 温熱環境								2.6	0.35		-				2.6
2.1 室温制御						—		2.2	0.50		-				
1 室温			W			—		1.0	0.38		-				
2 外皮性能						—		3.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性						—		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御						—		3.0	0.20		-				
2.3 空調方式						—		3.0	0.30		-				
3 光・視環境								3.4	0.25		-				3.4
3.1 昼光利用						—		3.0	0.30		-				
1 昼光率						—		3.0	0.60		-				
2 方位別開口						—		-	-		-				
3 昼光利用設備			W			—		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策						—		4.0	0.30		-				
1 昼光制御			W			室内ブラインド+庇の組合せ		4.0	1.00		-				
3.3 照度						照度が500lx以上1000lx未満		4.0	0.15		-				
3.4 照明制御						—		3.0	0.25		-				
4 空気質環境								4.2	0.25		-				4.2
4.1 発生源対策						床・壁・天井・天井裏のほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用、VOC放散量が少ない建材の採用		5.0	0.50		-				
1 化学汚染物質						—		5.0	1.00		-				
4.2 換気						建築基準法の必要換気量の1.2倍を満たす		3.6	0.30		-				
1 換気量						必要換気面積が居室床面積×1/20以上確保		4.0	0.33		-				
2 自然換気性能						—		4.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮						—		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理						敷地内(施設内含む)全面禁煙となっている		3.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視						—		1.0	0.50		-				
2 喫煙の制御						—		5.0	0.50		-				
Q2 サービス性能								—	0.30		-				3.1
1 機能性								2.7	0.40		-				2.7
1.1 機能性・使いやすさ						—		2.3	0.40		-				
1 広さ・収納性						—		1.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応						—		3.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画						—		3.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性						リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上(5.7%)		2.6	0.30		-				
1 広さ感・景観						—		3.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース						—		4.0	0.33		-				
3 内装計画						—		1.0	0.33		-				
1.3 維持管理						防汚機能付床材、風除室の奥行確保、外部鉄部の防錆処置		3.5	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計						—		4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保						—		3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性								3.4	0.30		-				3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振						官庁施設の基本的性能より1.25倍の耐震性を有する設計としている。		3.8	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						—		4.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能						—		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数					R	—		3.2	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数					R	—		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					R	—		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					R	—		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					R	—		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					R	上位3種のうち2種以上:B以上、Eは不使用		5.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔					R	—		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性						—		3.0	0.20		-				
1 空調・換気設備						—		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備						節水型器具、BCP配管系統、汚水貯留槽		4.0	0.20		-				
3 電気設備						—		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法						—		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備						—		2.0	0.20		-				

3	対応性・更新性									3.2	0.30	-	-	3.2
	3.1 空間のゆとり									3.8	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり							ゆとりある階高を確保している		5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ							—		2.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり							—		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性									3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性							—		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性							—		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保							—		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)									—	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				G				—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮									3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								—	3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	—	3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー										—	0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	BPI: 0.58	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W		H	BEI: 0.48	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価									4.0	1.00	-	-		
集合住宅の評価									-	-	-	-		
4	効率的運用									2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価									2.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制					W		H	—	1.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価									-	-	-	-		
4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル										—	0.30	-	-	3.4
1	水資源保護					W		R		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水									4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無								—	3.0	0.70	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無								—	3.0	0.30	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減									3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減					W		R	—	2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R	—	3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R	—	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R	断熱材、床:タイルカーペット、開口部:断熱	5.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R	—	2.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					W		R	GL工法・LGS下地を採用	5.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避									3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								—	3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避								—	3.0	0.70	-	-		
1 消火剤					W			—	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					W			—	3.0	0.50	-	-		
3 冷媒					W			—	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境										—	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮					W			LCCO2=62%	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮									3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止								—	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	—	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減						R		—	3.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						R		—	3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制						R		駐輪場、来庁者・職員・管理用の駐車施設・スペースの確保	4.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制						R		—	2.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮									3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-		
1 騒音								—	3.0	1.00	-	-		
2 振動								—	-	-	-	-		
3 悪臭								—	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制								—	3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制								—	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制								—	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制									3.7	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								光害対策ガイドラインの一部を対応、広告物照明・設置なし	4.0	0.70	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								—	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	-		○	-	-	-		-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		-	○	-	○	○	○	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0			○	-	-	-	○		○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	○	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	2.0	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	-	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(0.5) 窓の日射熱取得率(η) 0.4

U値(W/m2K) 窓システム 3.9 屋根 2.7

外壁 2.1

床 2.2

住戸部システムU値 - 外皮UA値 -

ηAC -

ηAH -

屋光率 1.6%

自然換気有効開口i 5.0%

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 5.7㎡ /人 病床 /床 シングル ツイン

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容f VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.6 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 5.7% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 13~15 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 10 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 15 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4m(階 m)

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 62.9%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/㎡2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 13% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 56%

水平投影面積率 10%

地表面対策面積率 8%

舗装面積率 40%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.58 f熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数 0 採光を満たす住戸数 0

通風を満たす教室数 0 通風を満たす住戸数 0

3 設備システムの高効率化

太陽光

#REF!

太陽熱等

#REF!

蓄電池

#REF!

3a.3f 非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ 0.48 無 0.48

オフサイト再エネ有

-

-

3b.c 集合住宅の評価

一次エネ削減再エネ 無

-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品f 断熱材、タイ、エコマーク商品 -

自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 58% f棟間隔指標Rw 0.46

地表面対策面積率 10.0%

屋根面対策面積率

0.0%

外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 819㎡ f越風向と直交する最大敷地幅Ws 70.027 m

基準高さHb 20.085 m

緑地 #####

水面 ㎡

保水性対策面 ㎡

高反射対策面 ㎡

再帰性反射対策面 ㎡

㎡